

自衛隊観艦式・外伝

写真と文／小久保陽一（特記以外）

外国艦艇の来日に合わせ実施された 21発の礼砲交換・祝砲発射



祝砲を発射するのは50口径3インチ単装砲。第二次大戦中に製造された年代物の砲だ

自衛隊観艦式に参加するために来日したフランス海軍フリゲート「ヴァンデミエール」に向けて祝砲を発射

10月10日および14日の両日、自衛隊観艦式に参加するために来日した4隻の外国艦艇に対し、観音崎礼砲台において「礼砲交換・祝砲発射」が実施された。

10日には、オーストラリア海軍のフリゲート「スチュアート」が到着し、観音崎礼砲台前を通過する8時50分に合わせ、まず最初に豪艦艇から最上位に区分される21発の礼砲が放たれると、続いて観音崎礼砲台からも同数の礼砲がリズムカルに放たれた。使用された礼砲は50口径3インチ単装砲（Mk22 MOD4）で31番砲、32番砲、33番砲の3基だ。驚いたことにどれも歴史が刻まれた逸品ばかりで、製造年月日も31番は不明だが、32番は1942年、33番は1943年で、現在まで維持管理されてき

ている。また3ヶ所並ぶ礼砲台も、31番と32番は1962年5月1日に、そして33番は1965年11月30日に開設されている。

14日は3ヶ国の艦艇が来日し、それぞれの寄航に合わせて同様の礼砲発射が実施された。まず朝7時20分にフランス海軍フリゲート「ヴァンデミエール」が21発の礼砲を放ち、それに応えてフランス国旗を掲揚しつつ、こちらからも21発を発射。そして韓国海軍駆逐艦「テ・ジョヨン」に対しては7時50分に同じく21発が、8時20分にはインド海軍フリゲート「サヒャディ」に対しても21発が発射された。またこういった祝砲発射は、観艦式の予行日、および本番日である12日、15日、18日にも実施されている。



訪日艦艇すべてが横須賀に入港した14日、午前10時から入港歓迎行事が実施された。4国艦艇の乗員および、「むらさ

21発の礼砲は最上位の区分で「国旗、元首」を迎える際に実施される（写真／海上自衛隊）

め」「あたご」などホストシップの乗員、大使館関係者が集まる中、舞鶴音楽隊の演奏が行われた。海上自衛隊横須賀地方総監部監理部長からの歓迎の挨拶があり、また訪れた各艦の艦長も挨拶を返し、その後は各艦長への花束贈呈もあった。当日は天候にも恵まれたよいムードの中、無事に歓迎行事は終了となった。



インド海軍フリゲート「サヒャディ」への祝砲。右端の隊員は艦艇に敬礼を行っている



4ヶ国の艦艇すべてが入港した14日には、横須賀基地で入港歓迎行事が実施された